

静岡教区学生会 オンラインのつどい

今できることを新たな繋がり目指して



第624号

発行所

天理教静岡教務支庁
〒425-0013
焼津市岡当日1番地

TEL (054) 626-1333
FAX (054) 628-4615
Email:skyou@live.jp



教区学生会は3月28日、「静岡教区学生会 オンラインのつどい」を開催した。例年行われていた「春の学生おちばがえり」は昨年同様、新型コロナウイルスの感染拡大の現状を鑑みておちばでの開催は中止に。そのため今年は、YouTube上で式典映像を配信し、学生らが自宅や教会などそれぞれの場所で見聴できる形となった。

これを受け、教区でも何か学生に楽しんでもらえるものと同行事を企画。ビデオ通話ソフト「ZOOM(ズーム)」を使用したの同時視聴や、オンラインでも楽しめるグループワークを計画し、半年前から会議や入念なリハーサルを重ねてきた。当日、オンライン上に集まった参加者は、はじめに式典映像を全員で視聴。オンラインの集い実行委員長の決意や、吉川万寿彦本部員の講話を熱心に聞いた。

その後、学生会OBOSが進行役となり、班に分かれてグループタイムへ。自己紹介や式典の振り返りなどを行った。リモートでもできるゲームでは、スケッチブックに絵を描きしりとりをする「絵しりとり」など、距離の壁を越えて楽しむ学生の姿が見られた。

始めは慣れないオンラインでのやり取りに緊張した面持ちの学生も多かったが、OBOSのリードや学生会での体験談を聞くなど少しずつ表情もほぐれていった。

約4時間の行事を終え、参加者は「リモートでも十分楽しめた。また機会があれば参加したい」と笑顔を見せた。

最後に教区学生担当委員会・岡野多吉委員長は「まだまだ変わらぬ状況が続くなかだが、おたすけ心を持って、今の自分にできることをしていったほしい。これからも学生会だからできる行事を企画していくので、ぜひ教区学生会に参加してもらいたい」と会員に呼びかけた。

教区学生会では、公式LINEを作成して今後の行事予定を宣伝したり、オンラインを使ったり、行事も検討していく予定。若者だからこそできる新たな繋がりを目指していきたい。



「少年会わかぎのつどい」を開催



静岡教区少年会（村田孝浩団長）は、三月十四日教務支庁を会場に「少年会わかぎのつどい」を開催した。コロナ禍の中、恒例の「子どもおぢばがえりサマースクール」、「少年会のつどい」など主だった行事を中止せざるを得なかったことから何とか少年会員たちが集う場を設けたとの思いから「三密」を避け感染対策に十分留意した中での開催となった。

午前十時三十分より受付開始、十一時より坐りづつとめをつとめられた。引き続き式典が開会された。高津直信副団長の挨拶が行われ、サマースクール参加者に記念品贈呈が行われた。



午前十時三十分より受付開始、十一時より坐りづつとめをつとめられた。

参加者は、少年会員（中学生）十四名・育成会員六名・スタッフ五名でした。

新任・教会長に就任して

中駿西支部

静岡大教会部属

安倍分教会七代会長

鈴木 治郎

（五十四才）



の後、時代を隔て、代を重ね、六代と続いてまいりましたが、昨年、六代会長が出直しました。その後任として、昨年十二月二十六日に御本部にて、安倍分教会七代会長の理のお許しを戴きました。

安倍分教会は明治三十三年十月三日に教会を設立致しました。

安倍分教会初代会長

鈴木半五郎は明治二十四年三月十日、妻の身上により、お道にお引き寄せ頂き入信致しました。

後、明治二十四年九月三十日より当教会所在近辺にて布教を始めて数年後、信者が

増えてきた為、教会設立にあたり上級教会及び信者様方の推挙により、鈴木半五郎が初代会長となりました。そ

の後は、時代を隔て、代を重ね、六代と続いてまいりましたが、昨年、六代会長が出直しました。その後任として、昨年十二月二十六日に御本部にて、安倍分教会七代会長の理のお許しを戴きました。

私は高校から十二年間、おぢばにおいて伏せ込み、学ばせて頂きました。しかしながら、それ以降は道一条とは言えず、年を重ねて来ましたが、これからは新たに教会長として、信者様方を教え導き、道の先達として行かなくてはなりません。又、教会も末代へと繋がる御守護を戴けるようにつとめさせて頂かなくてはならないと思えます。何分にも成人の至らぬ私ですが、皆様方の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い致します。

教友・一手一つにたすけあい

二月十一日午前十一時二十五分頃、掛川市上西郷の眞代布教所（敷島大教会眞和分教会所属）より出火、木造二階建て住宅と隣接の小屋を全焼した。教区学生担当委員会の教区委員をつとめる佐藤元信さんの実家にあたる。



罹災の報を聞いた教区活動を共につとめる仲間たち、支部の教友たちが互いに声を掛け合い、火事現場の後片付けのひのきしんに取り



掛かった。二月十三日より三月二十八日まで約百三十人の方がひのきしんに取り組んだ。佐藤元信さんは「神様のご守護で隣家への延焼も防げました。焼け跡の面倒な分別をはじめ多岐にわたりご助力頂いた、教区の仲間たち、支部の方々をはじめ大勢の方々のご真実にはただただ感謝の言葉しかありません。」とお礼の言葉を述べられた。

新型コロナウイルスの終息を祈念 本部神殿でお願いいづとめ

四月一日正午、新型コロナウイルスの感染拡大が国内外で続く現状を鑑み、教会本部は、本部神殿でお願いいづとめを勤めた。

おつとめに先立つあいさつで、宮森与一郎内統領はお道を信仰する者にとって、心定めと神一条の態度が大切であると強調。「人を救ける心は真の誠」とお教えくださるのだから、今こそおたすけに

つながる動きを、お道の人らしい実動を、皆がこぞつて心を定めたいとして、「教祖がおりくだされたたすけ一条のひながたの道を、いまの自分はどうすれば踏み行えるのかをしつかり思索し、心を定めて実行していこう。それぞれに親神様から託されたおたすけがあるはず。何からでも始めていこう」と呼びかけ、

「まずは自分自身の実動の心定めである。そのうえで、案じるとか疑うなどのわが身思索の心をすつきり捨てきつて、心をそろえて、ご守護を願いたい」と述べた。

なお、新型コロナウイルスの終息を祈念するお願いいづとめは原則、毎月一日正午から本部神殿で勤められる。期間は年内の予定。



道友社の新刊書

天理教道友社

お近くの書店か道友社へ
直接お申し込みください。

注文受付 ☎0743(63)4713
☎03(3917)6501(東京支社)

Webストア
<https://doyusha.net>



十二下りの
てをどりを
身近に

深谷太清
Takayama Motokiso
やまとよふき分教会長

こころ陽気に
世界たすけへ

教祖のひながたや当時の時代背景に言及しながらお歌と手振りに込められた親心をたすね、成人への道をたどる。

5月1日発売!!

※道友社の販売所では4月17日から販売します。

「十二下りのてをどり」は、一人ひとりの信心を育み、人々の心を陽気にしたけだけではありません。「かぐらづとめ」とともに、まさに世界たすけの「つとめ」として、人々によって熱心に習得され、命懸けで勤められてきたのです。

(「はじめに」から)



定価1,760円 [本体1,600円]
A5判並製 / 356ページ

読書会の皆様へ——
本書は定期配本です。



50th Anniversary

天理教災害救援 ひのきしん隊 結成50周年 記念大会

感謝と決意を胸に
おぢばに集結

結成50周年にあたり、隊員がおぢばに集い、いざという時の自覚を高めつつ、災害のない世界を御守護いただけるよう、ひのきしんの態度を養い、地域のひのきしん活動の中核となつて励むことを誓う



立教184年 **6月27日** 日

- 内容** 午前8時30分 おつとめ(東礼拝場)
午前10時 記念式典(天理大学柚之内第一体育館)
- 対象** 隊員
- 服装** 隊服、ヘルメット
- 参加御供** 一人 500円

※参加者の体調管理・消毒など、感染防止対策を徹底して行います。
状況によっては参加を見合わせるなど、無理のないように対応してください。

大会までの活動方針 「実動を見据えた隊の充実」

- 1 訓練の実施と充実
- 2 隊員の自覚と増員
- 3 ブロック内の連携強化